

Euclid型 Jordan代数の clan 構造における 右乗法作用素の帰納的構造と行列式

野村 隆昭 (九大・数理)*

単純な階数 r の Euclid 型 Jordan 代数を V とし, その単位元を e_0 とする. V の Jordan 乗法作用素を $M(x)$ で表す: $M(x)y = xy$. また V には trace 関数で内積を入れておく: $\langle x | y \rangle = \text{tr}(xy)$. そして V の Jordan 枠 c_1, \dots, c_r を一つ固定し, それによる V の Peirce 分解を $V = \bigoplus_{1 \leq j \leq k \leq r} V_{kj}$ とする. ただし $V_{jj} := \mathbb{R}c_j$ ($j = 1, \dots, r$) であり,

$$V_{kj} := \left\{ x \in V ; M(c_i)x = \frac{1}{2}(\delta_{ij} + \delta_{ik})x \quad \text{for } i = 1, \dots, r \right\} \quad (1 \leq j < k \leq r).$$

一方 $\Omega := \text{Int}\{x^2 ; x \in V\}$ を V の対称錐とし, Ω の線型同型群を $G(\Omega)$ とする. $G(\Omega)$ は reductive な Lie 群である. 上記 Peirce 分解を経由して, $G(\Omega)$ の岩澤部分群 (分裂可解) H が標準的に定義され, H は Ω に単純推移的に作用している. このとき軌道写像 $H \ni h \mapsto he_0 \in \Omega$ は微分同相である. これを H の単位元において微分して得られる線型写像 $X \mapsto X_{e_0}$ は線型同型 $\mathfrak{h} := \text{Lie}(H) \cong V$ を与える. その逆写像を $V \ni x \mapsto L_x \in \mathfrak{h}$ とする: $L_x e_0 = x$. この V 上の線型作用素 L_x ($x \in V$) を用いて, $x \triangle y := L_x y$ ($x, y \in V$) により V に双線型な積を定義する. これにより, V は Vinberg が導入した clan と呼ばれる非結合的代数をなして, e_0 はその単位元にもなっている. そして上記の Peirce 分解はこの clan 構造における正規分解にもなっている. この二つの乗法構造の関係は次の補題の通り.

補題 1.1. $x \in V_{kj}$ ($1 \leq j \leq k \leq r$) のとき, $L_x = 2[M(x), M(c_j)] + M(x)$.

タイトルにおける右乗法作用素とは, この V の clan 積 \triangle における $R_y x := x \triangle y$ のことである. Jordan 乗法作用素達は自己共役, clan の左乗法作用素達が V で同時三角化可能であるのに対して, 右乗法作用素達はそのような性質を持たない. 右乗法作用素の帰納的構造を調べるために V の正規分解を次の様に区分けする. $V' := \bigoplus_{1 \leq j \leq k \leq r-1} V_{kj}$ とし,

$$\Xi := V_{r1} \oplus \dots \oplus V_{r,r-1}, \quad W := \Xi \oplus \mathbb{R}c_r \quad \left[V = \left(\begin{array}{c|c} V' & \Xi \\ \hline \text{} & \mathbb{R}c_r \end{array} \right) \leftarrow \text{イメージ図} \right]$$

とおくと, V' は, Jordan 代数としても clan としても, V の部分代数になっている. さらに W は clan 構造での V の両側 ideal になっている. そして $V = V' \oplus \Xi \oplus \mathbb{R}c_r$ と分解されている. さらに $v' \in V'$ のとき, $R_{v'}(\Xi) \subset \Xi$ であるので, $R_{v'}^\Xi := R_{v'}|_\Xi$ ($v' \in V'$) とおく.

一方で, V' (resp. Ξ) は冪等元 c_r の Peirce 0 空間 (resp. 1/2 空間) であるので, $\phi(v')\xi := 2v'\xi$ ($v' \in V', \xi \in \Xi$) とおくと, $\phi : V' \rightarrow \text{End}(\Xi)$ は Jordan 代数 V' の表現になっている.

本研究は科研費 (課題番号:18340039) の助成を受けたものである。

2010 Mathematics Subject Classification: 17C50, 43A85

キーワード: Jordan algebras, relative invariants

* 〒 819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学 大学院数理学研究院

e-mail: tnomura@math.kyushu-u.ac.jp

web: <http://www2.math.kyushu-u.ac.jp/~tnomura/>

命題 1.2. $R_{v'}^{\Xi} = \phi(v') \ (\forall v' \in V')$.

結果の見栄えを良くするために、 W の内積の正規化を少しだけ変えておく：

$$\langle \xi + \lambda c_r | \xi' + \lambda' c_r \rangle_W = \langle \xi | \xi' \rangle + \frac{1}{2} \lambda \lambda' \quad (\xi, \xi' \in \Xi \text{ and } \lambda, \lambda' \in \mathbb{R}).$$

部分 clan である (V', Δ) における右乗法作用素を $R'_{v'}$ と書く.

定理 1.3. 各 $v \in V$ を $v = v' + \xi + v_r c_r \ (v' \in V', \xi \in \Xi, v_r \in \mathbb{R})$ と表すとき

$$R_v = \left(\begin{array}{c|cc} R'_{v'} & & O \\ \hline * & \phi(v') & \langle \cdot | c_r \rangle_W \xi \\ \hline & \langle \cdot | \xi \rangle_W c_r & v_r \text{id}_{V_{r,r}} \end{array} \right).$$

$\text{Det } R_v$ を記述するために、 V の Jordan 枠 c_1, \dots, c_r に付随する Jordan 代数版の principal minors を $\Delta_1(v), \dots, \Delta_r(v)$ ($\deg \Delta_j = j; j = 1, \dots, r$) とする. これらは H 相対不変な V 上の多項式関数であり、 V の対称錐 Ω に付随する基本相対不変式をなしている. V は単純であるとしているので、 $j < k$ のときの $\dim V_{kj}$ は一定である (この値を d と書く).

定理 1.4. $\text{Det } R_v = \Delta_1(v)^d \cdots \Delta_{r-1}(v)^d \Delta_r(v) \ (v \in V)$.

注意. (1) それほど明らかなことではないが、一般に単位元を持つ clan の右乗法作用素の行列式 $\text{Det } R_v$ は、clan の左乗法作用素の \exp から生成される Lie 群 H に関して**相対不変**な多項式関数になっている： $\text{Det } R_{hv} = \chi(h) \text{Det } R_v \ (h \in H, v \in V)$. ここで H の 1 次元表現 $\chi(h)$ は $\chi(h) := (\text{Det}_V h)(\text{Det Ad } h)^{-1}$ で与えられる (文献 [3, Lemma 2.7] 参照). 定理 1.4 はこの $\chi(h)$ を分析することからでも得られる.

(2) 文献 [1, Theorem 5.1] により、一般に単位元を持つ clan において、 $\text{Det } R_v$ の既約因子が丁度基本相対不変式をなしている.

参考文献

- [1] H. Ishi and T. Nomura, Tube domain and an orbit of a complex triangular group, *Math. Z.*, **259** (2008), 697–711.
- [2] H. Nakashima and T. Nomura, Clans defined by representations of Euclidean Jordan algebras and the associated basic relative invariants, Preprint, 38pp, 2012 (to appear in *Kyushu J. Math.*).
- [3] T. Nomura, On Penney’s Cayley transform of a homogeneous Siegel domain, *J. Lie Theory*, **11** (2001), 185–206.